

平成 23 年度 第 2 回心理学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

日時：平成 23 年 5 月 27 日（金）午後 3 時から 5 時まで

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

出席者：木村委員長、中澤委員、大島委員、金子委員（記録）
（事務局）井端事務局長、森下主幹、松本職員

1, 資料説明

2, 議事

- ・臨床系授業モデル担当の委員から、資料 3-1 「学士力へのプロセス・モデル」の説明をうけ、今回の提案はひとつの授業モデルではなく、授業運営のプロセス（システム）モデルとすることを確認した。
- ・教師同士の連携、他大学との連携、他領域との連携、自治体を含む地域との連携の重要性である。
- ・「社会に対する学士力」の視点や、「カウンセリング・マインド」も必要である。
- ・教育デザインを作ることが目標であり、ひとつの授業の案を作ることではない。
- ・シラバス、授業シナリオだけではなく、カリキュラム上の授業配置を考えることも必要。
- ・将来の授業風景をイメージして考える方向で良いと思う。
- ・到達目標の 3, 「心理学的理論や手法を自己および社会の諸現象の理解に応用できる」という到達点を視野に入れながら文章化することにしたらどうか。
- ・現在は難しいところではあるが、他の授業との連携も重要な課題だ。
- ・学士力を担保するためのテストも、学年の進行に従って、通常の筆記試験やレポートから、ディスカッションや口頭試問へと移行させ、社会への説明責任、また学外者からのフィードバックを取り入れたら良い。
- ・今後ネット上での授業展開や、テストを外部教員に依頼するなどの連携が可能なのではないか。
- ・ICT のインフラ整備の方向性や、心理学独自の ICT 利用方法もあるのではないか。
- ・社会に示せる総合力として、「ダイナミックな人間関係力」、「他者受容」、「洞察的な分析力」など、心理学特有の目標を、ICT によって可能とする利用技術、授業技術が望まれる。
- ・授業履修後の連携も重要であろう。
- ・サイバー大学と大学内外の現実空間を、どのように効率的に使い分けるかが大切である。
- ・学士力として、フォーラムや、社会ネットワークへの参加を促すことも重要であろう。
- ・現実社会における行動を分析することによって、心理学の学士力と社会との接点を明確にすることも必要であろう。
- ・教育力についても検討する必要がある。

今後の委員会の進め方について

- ・8 月までにアンケートを出し纏めるので、6 月中に委員会内の意見を集約し、資料②「学士力の実現を目指す ICT 活用授業の開発モデルの例示」として最終案を作製する。
- ・最終案に於いては、「授業のねらい」「授業計画」「ICT を用いた授業シナリオ」を「教育のねらい」として、明確な目標を定める。

次回開催予定

平成 23 年 7 月 2 日午後 2 時よりを予定

以上